

科目区分：中等教育コース・音楽教育専修
授業科目名：ピアノ（1）
対象年次：1年次～（5名受講）

ピアノ（1）

音楽教育講座・安積京子

1. 授業の目的と到達目標

本授業は、ピアノの基礎的な奏法を学び、小学校から中学校教材程度の簡単な楽曲が豊かに表現できることを目的としている。練習曲、古典ピアノ・ソナタ、ロマン派の作品を取り上げて演習を中心に行い、発表や討議を行う。到達目標は、楽曲のデュナーミク、テンポ、表情記号など楽譜に示された音楽情報を正確に読み取り表現することである。

重複履修可能な授業であるため、今期は1年生2名に加え、2年生2名、3年生1名が再履修した。2年生はすでにピアノ奏法に関する基礎的な知識および技能を習得しているので、更に発展的な内容の課題を実施し、幅広い専門知識と高度な演奏能力を身につけることを目標とした。

2. 授業の概要について

本授業は、中等音楽教育コースと小学校サブコースの学生を対象に開講されている。受講生が興味のあるピアノ作品を1～2曲選び、半年間かけて練習し仕上げる。コロナ禍により授業は個人レッスンを中心に、毎回一人約30分間指導を行った。

3. 関連するディプロマポリシー

- 1) 教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。(知識・理解)
- 2) 教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。(技能)

4. 授業の課題について

以下に受講生が選択した課題の一部を記す。

- ベートーヴェン作曲：ピアノ・ソナタ第11番 Op.22 第4楽章
- ブラームス作曲：ピアノ・ソナタ第3番 Op.5 第1楽章
- ショパン作曲：練習曲 Op.10-8,25-11,25-12
- メンデルスゾーン作曲：無言歌集より「デ

ュエット」Op.38-6

○ショパン作曲：ピアノ・ソナタ第2番 Op.35 第1楽章

○ベートーヴェン作曲：ピアノ・ソナタ第4番 Op.7 第4楽章

5. 指導上のポイント

1) 課題曲選曲に関して

1～2曲を長期間かけて取り組むため、課題を熟考して適切な難易度の曲を選択することが重要である。個々の学生の手の大きさに留意しながら、得意な表現分野を生かせる課題曲を選曲できるよう適宜アドバイスを行った。

2) 演奏指導に関して

○運指はピアノ奏法の基礎となるものであるため、譜読みの段階から最も適した指使いを選択できるよう細心の注意を払った。

○困難な箇所が弾けずに悩んでいる学生には、複数の練習方法を例示し、模範演奏をしながら丁寧に指導をした。

○豊かな表現力で演奏するために、オーケストラの様々な楽器の音色を想像させ、アーティキュレーションやフレージングを考察し、タッチの仕方を工夫させ、音作りを行った。

○和音を美しい音色で効果的に響かせるため、指先と腕の使い方を繰り返し指導した。

○ペダル使用の目的を明らかにし、無意味な使用を避け、合理的な使い方を検討させた。

○音楽の自然な流れを追求するため、フレーズの取り方やテンポ・ルバートの加減を吟味させた。

○楽曲の形式や様式を学ばせるために必要な文献を適宜紹介した。

○作品への理解を深めるため、作曲者の生涯、その時代背景、作風等について調べさせ、レポートを提出させた。

○受講生の練習するモチベーションを高めるため、学外のホールを借り、一般公開のピアノ研究発表会を企画・運営した。

6. 授業アンケート

本授業終了時に、受講者5名を対象に無記名方式で、下記の7項目の4段階評価によるアンケートを実施した。また自由記述も併用した。

1) 集計結果について

1.本授業に興味を持ち積極的に参加出来たか。
出来た 3名

どちらかといえば出来た 2名

どちらかといえば出来なかった 0名

出来なかった 0名

2.本授業のための準備は毎回充分であったか。
充分であった 0名

どちらかといえば充分であった 3名

どちらかといえば充分でなかった 2名

充分でなかった 0名

3.出席状況は良好であったか。

良好であった 4名

どちらかといえば良好であった 0名

どちらかといえば良好でなかった 1名

良好でなかった 0名

4.授業の難易度は適切であったか。

適切であった 2名

どちらかといえば適切であった 3名

どちらかといえば適切でなかった 0名

適切でなかった 0名

5.授業中は良好な雰囲気は保たれていたと思うか。

そう思う 4名

どちらかといえばそう思う 1名

どちらかといえばそう思わない 0名

そう思わない 0名

6.受講後、新しい専門知識や演奏技術を得ることができたと思うか。

そう思う 4名

どちらかといえばそう思う 1名

どちらかといえばそう思わない 0名

そう思わない 0名

7.本授業を受講したことが、今後の学習に有意義であると思われるか。

そう思う 4名

どちらかといえばそう思う 1名

どちらかといえばそう思わない 0名

そう思わない 0名

8.本授業で良かった点（自由記述より抜粋）

○教員が主にアドバイスや提案をするが、学生の意見も積極的に聞いてくれた。

○練習方法で悩んでいたが、毎回の授業によって直すべきポイントが分かった。

○今まで知らなかった奏法や自分の中になかった解釈をたくさん知れて視野が広がった。

9.本授業で改善すべき点（自由記述より抜粋）

○作曲家や曲についてのレポートの告知は初回にして欲しかった。

○コロナ禍における Zoom による遠隔レッスンの質を改善してほしい。

○個人レッスンの時間をもっと長くして欲しい。

2) アンケート結果のまとめ

授業外学習時間は週平均7時間であった。ばらつきがあり、2時間練習する学生と20時間する学生がいた。授業準備に関しては、どちらかといえば充分であったと回答する学生が多かった。授業課題の難易度はほぼ適切であり、8割の学生が受講後、新しい専門知識や演奏技術を得ることができ、また今後の学習に有意義であったと回答している。

7.「地域社会を核とした教育と研究のつながり」について

1月14日（金）に愛媛県男女共同参画センターにて、2年ぶりにピアノ研究発表会を開催することができた。来場客は学生の身内に限定したが、半年間の研究成果を披露でき、学生の喜びはひとしおであった。ウィズコロナの時代に地域社会において、学生を主体とした音楽活動を今後どのように展開していくべきか模索しつつ、オンライン完結型の新たな地域交流や音楽プログラムも検討したい。

